

# 10年のあゆみ



関西ねじ協同組合  
創立10周年記念誌

[表紙写真：螺旋花（ねじばな）]

関西ねじ協同組合

創立10周年記念誌

# 目 次

---

創立10周年に寄せて・・・関西ねじ協同組合 理事長	箕村 理	3
創立10周年に寄せて・・・関西ねじ協同組合 初代理事長	田島 祥一	4
祝辞・・・・・・・・・・	社団法人日本ねじ工業協会 会長 竹中 弘忠	5
第1章 創立10記念式典		
式典次第・・・・・・・・・・		7
実行委員会・・・・・・・・・・		12
第2章 沿革		
創立に至るまで・・・・・・・・・・		14～15
10年の歩み・・・・・・・・・・		16～25
第3章 委員会の活動概要		
人材確保推進事業・・・・・・・・・・		28～29
研究開発委員会（ねじの腐食寿命予測と試験方法の検討）		30～31
資格制度委員会（ねじ技能検定制度の構築）		32
総務委員会・・・・・・・・・・		33
海外情報委員会・・・・・・・・・・		34～35
福利厚生委員会・・・・・・・・・・		36～37
会員交流委員会・・・・・・・・・・		38
人材開発委員会・・・・・・・・・・		39
広報委員会・・・・・・・・・・		40
IT活用委員会・・・・・・・・・・		41
K-2（二世会）・・・・・・・・・・		42
ねじづくりサポート会（旧賛助会分科会）		43
第4章 歴代役員年表・組合員名簿		
歴代役員名簿表（第1期～第6期）		46～48
組合員名簿（平成24年8月現在）		50～56
あとがき・・・・・・・・	創立10周年記念誌作成チーム 委員長 池田 裕之	57

# 創立10周年に寄せて

関西ねじ協同組合 理事長 箕村 理

関西ねじ協同組合は本年、10周年を迎えることができました。節目となる嘉日を迎えられたのは、田島祥一前理事長を含め歴代の役員、ならびに組合員・賛助会員の皆さま、経済産業省や大阪府などの関係機関のご指導、ご支援によるものであり、深く感謝申し上げます。

加えて、関西ねじ協同組合は昭和初期からねじ産業を支えてきた5つの団体が統合し創立された組合です。統合前のこれらの団体において業界発展に尽力された諸先輩方の働きにも深甚なる感謝の意を表します。

さて、関西ねじ協同組合が誕生してからは、イラク戦争、長野オリンピック、ライブドア事件、郵政民営化、民主党政権誕生、東日本大震災と、まさに激動の10年間でありました。そして、中国は著しい経済成長を遂げ、日本を抜き世界第2位のGDPを誇っています。我々製造業を取り巻く経営環境も年々厳しさを増しております。国境を超えた価格競争は激しくなり、アジア諸国の製造技術は日進月歩で進化しています。以前にもましてグローバルな視点で経営判断をする重要性が高まっています。

このような中、関西ねじ協同組合は、創立当初から厚生労働省管轄「人材確保推進事業」に3年間取り組みました。この事業では人材確保検討委員会を新設し、数多くの研究会、講習会、研修会を実施しました。その後、4年連続して大阪府管轄「地場産業総合活性化補助事業」に取り組みました。この補助金事業を活用した研究開発委員会では、「ねじの腐食寿命予測と試験方法の検討」をテーマに研究を続け、平成22年3月には特許登録の成果を残しました。また、ねじ製造の技能検定制度構築が目標である「資格制度研究会（後に委員会へ昇格）」が、平成21年度に全国中小企業団体中央会管轄「中小企業活路開拓調査・実現化事業」を活用し、技能検定学科試験用テキスト素案を取りまとめることができました。また、他団体との協力しJIS改正原案作成にも大きく貢献することもできました。このように、創立以来の10年間は、統合したスケールメリットを活かした大きな業界テーマに取り組み、成果を残すことができました。

本記念誌がこれら10年間の歩みから教訓を学び、現在の歩みを律し、業界の輝かしい将来へと導くものとなれば幸いです。この10周年にあたり、諸先輩方が残された働きに負けぬよう、今後も関西の締結業界発展のため寄与してまいりたいと決意しております。

最後になりますが、今後とも皆さまからの一層のご指導、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

# 創立10周年に寄せて

関西ねじ協同組合 初代理事長 田島祥一

関西ねじ協同組合は2004（平成14年）年の創立以来、10年の月日をかさねることが出来ました。関係各位のご支援の下、今日を順調に迎えられましたことに、組合の皆様方の多くの努力の賜物と深く感謝申しあげます。

ここで設立の経緯について少々振り返りますと、平成13年に数度の5団体統合の準備会が開かれた後、12月26日に各団体の理事長や委員が集合しての第1回統合特別委員会が開催されました。この開催に至る事ができましたのは、今回の大合併の口火を切られた（社）日本ねじ工業協会（元）副会長の北井正次さん、常に側面よりご支援いただいた副会長の嶋田亘さん、そして各団体の理事長各位の業界発展への強い思いがあったことを申し述べねばなりません。

この特別委員会におきまして、委員長として私が推進役を仰せつかり、①合併に伴う法的、財務的手続の検討 ②新団体の事業計画の策定を協議することなどを決定いたしました。又、新組合の名称の決定や、次年度の5月に各団体が個別に合併に向けての総会決議を行い、平成14年10月1日に新団体発足を実現するという合併のスケジュールを決定しました。

その後、この委員会は合併準備委員会として4回開催され、前述の諸手続や合併契約書の調印等をクリアーの後、新組合の理事予定者を決定してその役割を終了し、新組合の役員予定者会議にバトンを引き継ぎました。この会議では、新組合の定款、会費、事業計画等々、及び創立総会の準備を協議したのですが、各団体に亘る多くのことが時間の切迫する中で錯綜し、関係者各位には大変なご努力を頂いたことを記憶しております。

創立大会は、当時話題が沸騰しておりました「NHK・プロジェクトX」のチーフプロデューサーの今井彰氏による「これが日本人の底力だ」を記念講演とし、200名を超える業界参加者が新組合の誕生を祝福し、関西のねじ業界に大いなる元気をもたらしたと話題になりました。

新組合は、初年度から研究開発事業や経営革新事業等7つの事業を展開し、それらの事業の成果は、今日に（社）日本ねじ工業協会の主要事業として実施されている「職能基準・資格検定制度」のベースを提供したことや、技術開発事業の「耐食性研究」は学会等で一定の評価を得るまでに成長しており、数々の事業成果は合併による組合活動の活性化と有効性を裏付けるものになっていると思います。

さて、関西ねじ協同組合設立から10年を経過した現在の経済環境は、過去と比較ができないほどに凄まじい変化があり、大変厳しい状況になっております。いうまでもなく、円高や高い法人税等々に加え、電力不足問題を加えた所謂「6重苦」が我々「もの作り業界」を圧迫し、大変困難な環境になっています。

創立（合併）の精神もまさに「困難からの脱却」であったわけで、今がこのような状況であるからこそ、当組合の重要性がいよいよ高くなるはずです。どうか組合指導者の皆さん、組合員の皆さん、関西ねじ協同組合を中心に一致団結し、素晴らしい関西のねじ業界が発展・継続できるよう、心を新たに取組まれますように期待いたします。

# 祝 辞

社団法人日本ねじ工業協会 会長 竹中弘忠

関西ねじ協同組合が創立10周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴組合は、関西ねじ産業の更なる発展と、世界の経済環境の変化に機動的かつ有効な対応策の推進を図るべく、平成14年10月に在阪5組合(西部製線鋁螺工業協同組合、大阪鋁螺工業協同組合、近畿精密ネジ工業協同組合、日本ナット工業組合と大阪磨ナット工業協同組合)が統合され設立、現在、200社の組合員を擁する関西を代表するねじ協同組合に統一、拡大されました。

私は、当時、大阪鋁螺工業協同組合の理事長として統合に携わってまいりました。

リーマンショック、円高、デフレ経済、東日本大震災などの危機を乗り越え、今日、10周年を迎えられましたことは誠に喜ばしく、感無量でございます。

これもひとえに、歴代理事長、役員はじめ設立当初から組合を支えてこられた組合員の皆様の熱意と日々の努力の賜と衷心より敬意を表する次第です。

組合活動(事業)も活発に行っており、8委員会(研究開発、人材育成、海外情報、福利厚生、会員交流、広報、総務、IT)、7分科会(賛助会員、K-2、ドリルねじ、ボルト、ナット、小ねじ・タッピング、座金)等を設置されて組合事業を活発に展開されておられます。

特に、研究開発委員会では、独立行政法人雇用能力開発機構より3年間補助金の交付を受け「ねじの腐食寿命予測と試験方法の検討」について研究を重ね、「ねじ寿命と相関関係の深い新たな試験方法」に関して特許を取得され大きな成果をあげられました。

また、資格制度研究会を設け、ねじ従業員の技能・技術レベルの向上を図るべく、「ねじ技能の資格検定制度」に関して検討を進めてまいりました。

現在は、社団法人日本ねじ工業協会資格委員会が業務を引き継ぎ、ねじ製造関連技術・技能に係る「国家検定」の創設を目指して、鋭意取り組んでおります。

「国家検定」実現のために貴組合のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

更に、ITによる広報活動の強化、人材開発、海外市場調査、新卒者採用に関し在阪大学の就職課との連携推進など種々の事業を積極的に推進されており、関西のねじ産業の発展、振興に貢献されてこられました。

わが国経済は依然としてデフレ経済を脱却できず、加えて、欧米、中国等の新興国の景気停滞、海外製品との競合激化、需要産業の海外進出に伴う空洞化問題、原材料高等々ねじ業界を取り巻く環境は非常に厳しい状況でございます。しかし、ご高尚のとおり、ねじは「産業の塩」と言われており、世界各国の機械工業、住宅・建築、生活用品等々の重要かつ不可欠な締結部品であり、これら産業の発展・品質向上並びに世界の人々の安全で快適な日常生活を影で支えております。

ねじの需要は世界のいたるところでございます。経済がグローバル化した現在、厳しい国際競争に打ち勝つためにも、ねじへの造詣を深め、先見性、洞察力そしてタフな交渉能力を養い、世界で通用する人材の育成に努めるべきではないか思う次第です。

大阪はねじ産業の一大集積地でございます。大阪を拠点に活動されておられる貴組合がこれからも大阪・関西から世界にさまざまな情報を発信され関西のねじ業界および日本のねじ業界のなお一層の発展のため、さらなるご活躍を心から願ってやみません。

貴組合が10周年を将来への更なる飛躍の機会にされるとともに組合員各位のますますご発展を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。